

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

大学院生研究

2004年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			文学研究科	日本文学専攻
指導教員	所属・職名		氏名		
	文学部・教授		小 峯 和 明 印		
自然・人文の別	自然	<input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人	共同 名
研究課題	お伽草子における女性像及び男女関係の形				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	文学研究科・日本文学専攻 博士後期課程3年		Plaur Agnieszka ブラウル・アグネシカ 印		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
研究期間	2004 年度				
研究経費	200 千円				

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

室町時代の代表的な文学ジャンルであるお伽草子は他の同時代の文学のジャンルに比べて研究が盛んではなく、最近まで、特に海外では価値の乏しいジャンルとされていた。又、約五百群のお伽草子では研究の対象になった作品の数が限られ、未開拓の作品も数多く存在する。本研究はいままで殆ど研究者が目を通せなかったお伽草子を対象にし、作品の中に見られる人間関係(特に男女関係)を重視し、男女を物語るお伽草子を多様な面から分析し、民俗学・ジェンダー論等に基づいて研究を進めた。又、お伽草子とポーランドを含めた同時代のヨーロッパ文学と比較し、海外でもお伽草子の価値が見直されるように、また欧米の美術館や図書館には日本にないお伽草子の素晴らしい絵巻や絵本が沢山あるので、それらにもっと注目してもらえるよう、海外における研究発表ができるように博士論文の完成にむけて研究を推進した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[お伽草子] [男女関係] [ジェンダー論]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2004年度の研究は2003年度に提出した博士論文中間報告に基づき、対象とするお伽草子の作品の伝本や模写本の収集や、関連する先行の研究論文の検討を徹底的に進めた。さらに、研究の進展に応じて博士論文の計画も変更し、軌道修正した。最終的な博士論文計画は次のようである。

I. 文学上の女性考

1. 中世に生きた女たち—説話集をめぐって—
2. 女へのまなざし—女訓書の教え—

II. お伽草子の愛のかたち

1. 男と女の宇宙
 - 悲恋の変貌—『扇流し』を中心に—
 - 恋の狭間—『かわちかよひ』と『磯崎』の女たち—
 - 女の至福—『七草ひめ』における女と家の関係—
2. 「愛の力」論
 - 恋愛と仏教
 - 『桜の中將』の住吉明神—「恋路の神」への転生—
 - 本地物の恩愛—神道の愛とその表現—
3. 異類の恋
 - 強い女のイメージ—『天稚彦草子』を軸に—
 - 故郷を越えた恋—『かざしの姫』の恋のゆくえ—
 - 動物同士の恋—『ねこ物語』考—

III. 中世ヨーロッパの恋愛物語とその比較

1. 理想の追求
 - 『バラ物語』と中世叙情詩
 - 騎士道物語のヒロイン
2. 西洋と東洋の間
 - 『ヨーロッパ文化と日本文化』の女性たち
 - ルネサンス期物語の主人公—作品の紹介—
 - ヨーロッパの「お伽草子」—女性像比較の試み—
3. ポーランド中世・ルネサンス期の文学の紹介

今年度は、本研究の特に重要な柱となる二点に集中し、論文の第二部になる「宗教と恋愛」や「人間と異類」という二つのテーマについて詳しく論じた。その成果を二つの論文にまとめ、学術雑誌に投稿し、公表した。

「宗教と恋愛」のテーマに関しては、『桜の中將』をはじめ、いくつかのお伽草子の中に現れる住吉明神の意味とその役割について考察を行った。この研究の対象になった住吉明神は、元々『古事記』と『日本書紀』の中にみられる国家守護神であったが、『源氏物語』やそれ以降の文学には個人の念いをかなえてもらえる神になり、中世以降のお伽草子の作品の中では主人公たちの恋愛の守り神に変わってきた。お伽草子にみられる住吉の神についての研究成果は、『立教大学日本文学』93号(2004年)に「お伽草子『桜の中將』の住吉明神—「恋路の神」への転生—」の論題で掲載された。

もう一つのテーマである「人間と異類」に関しては、お伽草子の中から異類のモチーフを持つ作品を選び、それについて多面的な分析を行った。特に焦点を当てた作品である『かざしの姫』は、日本や世界文学にも珍しい人間と植物の恋愛のモチーフを持つ物語で、今までほとんど研究されなかったお伽草子でもある。『かざしの姫』の徹底的な分析や同類の作品の比較の結果を論文にまとめ、『立教大学大学院日本文学論叢』5号(2005年、春)に投稿する予定である。

本研究は日本とヨーロッパ文学との比較研究でもあるので、海外の資料もとても重要な部分で、今年度も海外や外国語の資料収集を行った。海外資料収集は二つの方法で行い、すでに日本語に訳された中世ヨーロッパ文学の書籍の購入、そして必要な外国語資料を海外から購入し、あるいは直接に資料のコピーを依頼した。外国語の資料を日本語に翻訳し、本研究で扱えるように基礎準備をした。日本では充分知られていない中世・ルネサンス期物語を日本語に訳し、それらを博士論文に掲載するために、翻訳を開始した段階である。

研究成果の概要 つづき

この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。